

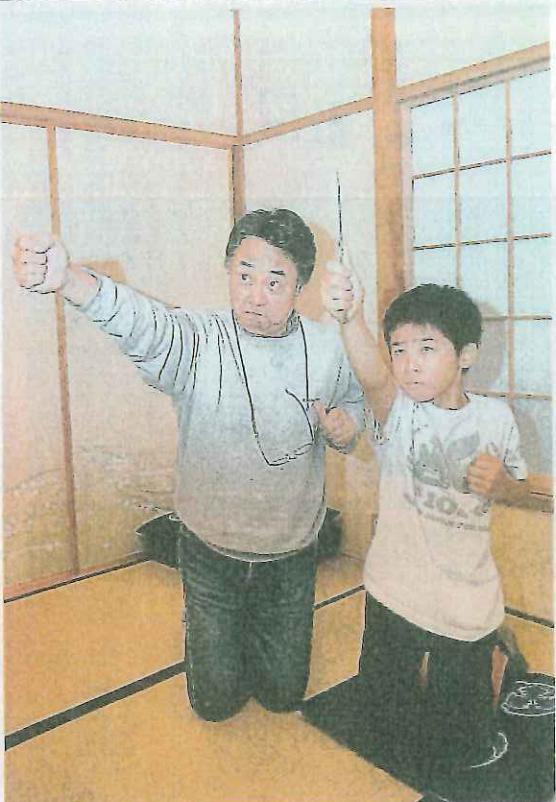
# 小中学生3人 前座に

御代田・軽井沢町などの住民有志が実行委員会をつくり、落語を通じて東日本大震災の被災者を支援する「信州すぐだせ落語会」を19日、佐久市の奥佐久労働者福祉センターで開く。お笑いが大好きだという地元小中学生3人が、プロの落語家の「前座」として落語の発表に挑戦する。「被災者にも楽しんでもらいたい」と、本番に向けて特訓を続けている。

## 地元で公募 収益は被災地へ

3人は、軽井沢町の軽井沢中  
部小5年香場翔君(11)、佐久市  
の臼田中1年田井南貴君(12)、  
佐久長野中1年木本純君(12)。  
金貢、落語の経験はない。8月  
下旬に軽井沢町軽井沢の放送作  
家、海老原靖芳さん(58)に「弟子入り」した。

香場君は、海老原さんが創作  
し、信州のネタをちりばめて医  
者と患者がやりとりする約7分  
の落語を披露。週1回、海老原  
さんの自宅に通つて指導を受け  
ている。表情豊かに一人役を演じる香場君は、「学校に(被災  
地から)避難している友達もい



## 御代田・軽井沢の有志 佐久で落語会

御代田・軽井沢町などの住民有志が実行委員会をつくり、落語を通じて東日本大震災の被災者を支援する「信州すぐだせ落語会」を19日、佐久市の奥佐久労働者福祉センターで開く。お笑いが大好きだという地元小中学生3人が、プロの落語家の「前座」として落語の発表に挑戦する。「被災者にも楽しんでもらいたい」と、本番に向けて特訓を続けている。

震災以降、何か力になりたいと考えていた海老原さんは、被災地へ独自に物資を送つていて、御代田町の会社社長、大井康史さん(46)に相談。大井さんが支部長を務める佐久法人会御代田支部の「地域社会貢献事業」の事業費を利用して、地域の人に楽しんでもらい、収益を義援金に充てる落語会を計画した。子どもが落語に関心をもつ機会にもしようと「前座」を募集した。

海老原さんは「震災でつらいことも多いが、笑うことで前向きになるきっかけの一つにしたい」と話している。落語会は今後も続ける考えだ。

当日は午後2時開演で、落語家の瀧川鯉昇さん、柳家喜多八さんが出演。大人2千円、小中高生千円(被災者と、社会福祉協議会を通じて被災地にボランティアへ行つた人は無料)。問い合わせは落語会事務局(0267・32・3333)。

海老原さん(左)に教わりながら落語の練習をする香場君

## 19日本番 「少しの間でも笑顔になって」